

序

社会医療法人財団白十字会 理事長 富永 雅也



社会医療法人財団白十字会は、1929年、初代理事長、富永猪佐雄が佐世保市宮崎町に診療所を開いて以来、長崎大学、福岡大学、佐賀大学や医師会の先生方を始め、関係各位のご指導とご援助をいただきながら、昭和・平成と80数年間を歩んでまいりました。

2013年は、日本にとって明るい大きなニュースがもたらされました。それは、2020年夏季オリンピック東京大会の招致が決定したことです。オリンピック招致委員会のメンバーが世界を相手に日本をアピールする姿に感動を覚えた方は少なくなかったのではないのでしょうか。

どのプレゼンテーションも心を打つものがありましたが、特に印象に残ったのはフリーアナウンサーの滝川クリステルさんが口にした「おもてなし」の一言でしょう。これは日本人の本質を一言で表現する言葉として今回の招致活動の象徴となり、流行語大賞にも選ばれました。

この「おもてなし」という言葉ですが、白十字会グループには身近にあったことは意外に知られていないかもしれません。

白十字会グループのシンボルマークは「hakujujikai」のhをデザインしたものであり、heart(心) hospitality(おもてなし) human(人間) health(健康)の4つの言葉を表しています。「おもてなし」というひとつの流行語を通して、白十字会が掲げる理念を再認識することができた年でもあったと言えます。

さて、医療・介護分野に目を向けますと団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年に向けて、抜本的な社会保障制度の改革が行われようとしています。

医療・介護を担う人材が不足し、提供体制の機能分化が不十分で医療と介護の連携も不足しているなか、全世代に配慮した長期的に維持可能な医療・介護制度の再構築が急務とされています。

国は医療提供体制の再構築および地域包括ケアシステムの構築を図ることとし、医療・介護サービス提供体制の効率化、重点化と機能強化のために医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実などに取り組む方針を打ち出しています。

佐世保中央病院はこれまでも、2008年に地域医療支援病院の認定、2011年1月には長崎県がん診療連携推進病院の指定を受けました。2011年度より、社会医療法人財団として救急医療をはじめとした急性期医療を実施し、地域医療の中核を担っております。

さらにこれからは地域包括ケアシステムを考慮した連携が必要です。白十字会においては、急性期から在宅医療までを担う施設、人材を有しており、それらの施設が連携することで、地域医療・介護の充実を図ることができると考えております。

「入院されたその日から、患者さんの明日を全員で考える」というスローガンのもと、職員一丸となり地域医療・介護を支えていく所存です。

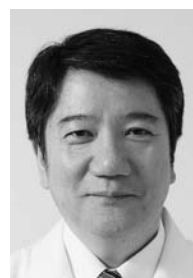
さて、このたび、関係各位の尽力により佐世保中央病院の2013年度病院年報が完成いたしました。植木院長のリーダーシップのもと、白十字会の『心』が詰まった内容となっており、4つの『h』を知っていただくのにふさわしいものであると確信しております。

いつも佐世保中央病院に賜りますご厚情に深く感謝、お礼を申し上げ、関係各位の今度共のご指導とご援助をお願い申し上げます、序文といたします。

平成25年度
佐世保中央病院活動報告
(Annual Report 2013)

発刊にあたって

佐世保中央病院長 植木 幸孝



「Annual Report 2013」の刊行を大変嬉しく思います。2006年度から病院の1年間の活動を一冊にまとめようと始めてから早8年、年ごとに内容が充実してきました。病院内のすべての職員の皆さんがこれを読み、1年の歩みを思いながら、次年度への努力を養うきっかけとなれば幸いです。また、病院外の皆様には、佐世保中央病院のアクティビティを観ていただければと思います。

佐世保中央病院は、2014年4月で社会医療法人財団4年目となりました。2013年度は2000台以上の救急車を受け入れ、救急医療に積極的に取り組みました。今後も、国が定める医療計画上の5疾病5事業の中心的な役割を担う社会医療法人として活動して参ります。

佐世保中央病院は、1995年9月に現在の地に新築移転し34の診療科を有する長崎県北部の中核病院になりました。それから早19年経過し、今では患者数の増加に加え、外来・病棟・各部門の機能分化を進める中でかなり手狭になってきました。2013年4月に北館（放射線部・臨床検査部）、2014年7月に南館（5階建て）が完成しました。

さて当院ではこれまで、富永理事長の御指導のもと多職種協働、チーム医療を先駆的に進めてきました。いまや全国的にも注目されている部門もあります。安全・安心の地域医療を支えるには、医療・介護・福祉がしっかり連携しなければなりません。2014年は、今まで以上に連携を強化し、医療・介護・福祉を守ってゆきたいと思っています。職種、施設を超えた連携をお願いしたいと思います。

現在職員総数約800名（常勤医師数60名、非常勤医師数34名）で運営していますが、職員一同協力して各部門連携（他職種共働）し、急性期病院として患者さんに満足される質の高い医療を提供したいと思います。また社会医療法人に課された公益性を認識し、地域の皆様が望む安全・安心の医療の提供へ努力します。今後とも関係諸機関と地域の皆様のさらなるご協力、ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

平成26年3月31日

CONTENTS

序

刊行にあたって

1 病院概要

沿革 6

理念・方針 11

基本情報 14

病院の取り組み 18

地域医療支援病院 19

臨床研修指定病院 23

脳卒中センター 24

認知症疾患医療センター 24

長崎県指定がん診療連携推進病院 25

日本医療機能評価機構認定施設 25

メディカル・ネット99 26

PREMISs 27

ISO15189 28

社会貢献(CSR)活動 29

施設基準 30

学会認定施設 32

電子カルテ(HOMES)紹介 33

ボランティア活動 33

白十字会Institute 34

病院統計

診療実績 36

紹介率・逆紹介率 37

外来延患者数、1日平均外来患者数 37

入院延患者数、1日平均入院患者数 38

平均在院日数(亜急性期除く) 38

平均在院日数(亜急性期含む) 38

病床稼働率(静態) 39

1日平均在院患者数(静態) 39

新規入院患者数 39

救急統計

救急外来受診者数と救急車搬入数 40

救急外来受診者の年齢分布 40

救急外来の診療科別内訳 41

救急車搬入時の診療科別内訳 41

診療情報統計

疾病大分類 42

疾病大分類(推移) 42

悪性新生物 43

悪性新生物上位15部位(推移) 43

退院患者(上位30疾患) 44

死亡退院患者率 45

臨床評価指標

入院中の新規褥瘡発生率 46

転倒・転落率 47

手術が必要となった入院中の転落 47

輸血製剤廃棄率 48

術中・術後の大量輸血患者の割合 49

糖尿病の患者さんの血糖コントロールとHbA1c
(HbA1c<7.4%の割合) 50

入院患者におけるリハビリ実施率 51

感謝状 52

満足度調査 53

2 診療部

外来診療担当表 58

呼吸器内科 60

内分泌内科 62

神経内科 63

リウマチ・膠原病センター 65

糖尿病センター 67

循環器内科 69

消化器内視鏡センター 71

人工透析センター 73

外科 75

脳神経外科 78

心臓血管外科 80

皮膚科 82

小児科 84

泌尿器科 86

耳鼻咽喉科 88

放射線科 89

麻酔科	91
病理部	92
認知症疾患医療センター	94
健康増進センター	96
学会発表実績	98

3 各部

看護部	116
薬剤部	122
放射線技術部	124
臨床検査技術部	126
臨床工学部	128
リハビリテーション部	130
栄養管理部	132
感染制御部	134
医療安全管理部	136
臨床研究管理部	138
事務部	
医療事務課・診療情報管理課	140
医局秘書課	142
資材課	143
施設課	145
システム開発室	146
総務課・財務課	147
地域医療連携センター	148
健康管理部	151

4 委員会

委員会組織図	154
活動報告	
病院機能向上推進室会議	155
倫理委員会	156
診療録等開示委員会	157
治験審査委員会	158
臨床研修プログラム委員会	159
医療安全管理対策委員会	160
院内感染対策委員会	161

栄養管理委員会	162
輸血療法委員会	163
臨床検査精度管理委員会	164
栄養給食委員会	165
医療廃棄物処理委員会	166
医療ガス安全管理委員会	167
放射線障害防止専門委員会	168
防火管理委員会	169
労働安全衛生委員会	170
救急部運営委員会	171
手術室運営委員会	172
ICU運営委員会	173
薬事委員会	174
クリニカルパス委員会	175
医療情報管理委員会	176
診療録監査委員会	177
保険診療検討委員会	178
物品管理委員会	179
広報委員会	180
図書委員会	181
個人情報保護運営会議	182
がん化学療法レジメン審査委員会	183
地域医療支援病院運営委員会	184
省エネルギー推進委員会	185
医療機器安全管理委員会	186
健診委員会	187
医薬品安全管理委員会	188
DPC委員会	189
提案委員会	190

5 巻末資料

院内行事	192
医療機器紹介	194
患者会・家族会活動実績	210
資格取得奨励支援制度	213
提案制度	214
学会発表実績	215